

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373400716		
法人名	社会福祉法人 十字会		
事業所名	十字園グループホーム		
所在地	岡山県真庭市下河内2275		
自己評価作成日	平成21年8月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3373400716&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(株)東京リーガルマインド
所在地	岡山県岡山市北区駅元町1-6岡山フコク生命ビル3階
訪問調査日	平成21年11月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれた立地条件を活用して、裏庭の家庭菜園で野菜作りを楽しんでいます。夏には茄子・胡瓜・トマト、冬には白菜・大根等を収穫して毎日の食事作りに利用しています。また、四季折々の草花を楽しみながら広い園を散歩したり、春にはお花見、秋には栗拾いと季節を感じながら昔の生活が営めるよう配慮しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・四季の移り変わりが身近に感じられる県北中山間地に在って、高齢者介護の複合施設で多くの総合病院と緊密な医療提携がある。・管理者は地域福祉への見識が高く、全職員を常勤とし離職者を少なくして職員の意見を積極的に取り上げ、入居者が普通の生活が送れるように支援している。・真庭市の「まちかど展覧会」に協賛し、「ふれあいタウン十字園」は地域の福祉の中核となっている。・真庭市の「認知症キャラバンメイト養成研修」に参加、市の高齢化福祉に積極的に協力している。・記録が不十分なので会議録を整備し、記録を残しケアアップや運営改善に繋がる工夫を期待します。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を施設内の目の付く場所に掲示している。	十字会の倫理規定に加え、グループホームの地域との連携を大切にしている理念は共有空間の居間に掲げられ、職員・管理者はその内容を共有し実践に努力している。	理念に向かって具体的な規定を設け、具現化に向かって努力されているが、十字会設立の原点に立ち返り、その精神の共有と実践にさらなる努力を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が高齢者のため広範囲での交流は無理である。敷地内の利用者同士の行事に参加し交流を図っている。また、「まちかど展覧会」に作品を出品し、見学に来ていただく。	法人内の施設同士で良く交流し、デイサービスに来る地元の方とはつきあう機会も多いが、特に「落ち合いまちかど展覧会」の会場を十字園内に設け地域近隣のふれあいの場となっている。	家族ともよく相談して、入居者が十字園の敷地を出て、今よりもっと多く地域と交流できるような工夫を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	真庭市が取り組んでいる事業(認知症サポーター講座等)に参加し、認知症に対する理解を深めていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者と一緒にできる作業を計画し、日頃の職員の介護を観ていただいたり、外部評価の報告等も行いながら、委員の意見を伺っている。	理事長・管理者・家族や民生委員等や包括支援センター職員で構成2ヶ月毎に開催、ホームの近況、外部評価の報告等をしている。特筆すべきは運営推進会議のメンバーと入居者が花壇作り等共同作業を行って、地域密着に大きく寄与している。	運営推進会議の皆さんと一緒に協力してデイサービス・ケアハウスとの輪を広げ、十字園内のネットワークを構築されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	真庭市内のグループホームで開催している連絡会議に、毎回担当者に出席していただいている。	真庭市が主催する「認知症キャラバンメイト」に職員を派遣、キャラバンサポーターの資格を取得して、地域で認知症啓発にも協力している。又法改正時には関係法令を質問する等連携を深めている。	広大な面積の真庭市にあって、地域福祉を推進する中核的な拠点となつて、真庭市及び落合地区に貢献できることを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	建物はもちろん、言葉での拘束に気を付けて、利用者の行動を束縛しないよう心がけている。また、法人で身体拘束0推進委員会を設けている。	法人内に「身体拘束0推進委員会」を設け、身体拘束マニュアルを設けて日常より身体拘束しないケアに取り組んでいるが、本年は未だ委員会を開催していない。	身体拘束0推進委員会を開催して、拘束防止のより専門的な研修をして、身体拘束0のケアの徹底に取り組む事を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について事業所内で話はするが、具体的に研修等学ぶ機会を確保していない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、利用者には該当者がいないが、知識として学ぶ機会を持ちたいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護保険制度の改定の度に、利用者の家族に説明し、同意書をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、意見や要望を聞けるようにしている。	面会時に職員は入居者の日常を伝え、意見・要望を聞き出しており、グループホームの玄関に意見箱を置いている。家族・利用者の意見・要望は毎月の職員会議で検討している。	ホームたよりを活用して家族に情報提供しているが、無記名アンケート等で家族の心配事、知りたいことを把握出来る仕組みを作り家族の意見をさらに汲み上げる努力をして下さい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2ヶ月に1回、副主任連絡会を開き法人の運営に関する報告等を行い、職員の意見を聞いている。	職員は2ヶ月毎の副主任会議に参加し、出た意見をホームに持ち帰り検討している。理事長・管理者は常時職員に声掛けし、意見を聞き運営に反映している。それが職員のケアへの積極性に繋がっている。	副主任会議の内容を持ち帰りその後いかに処理するか、これら会議の会議録が出来てないので記録を整備して、より具体的に職員意見を運営に反映することを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働安全衛生委員会を定期的に開催している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数に照らし、研修を受ける機会を確保したり、情報を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	真庭市内のグループホーム連絡会を3ヶ月に1回開催し、意見交換や情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の部屋に訪問し、ゆっくり時間をとって話を聞くよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に家族と面談し、不安なことや要望等を聞かせていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族に替わって介護をする上で、できるだけ本人の環境を変えない支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来る家事(掃除・調理・洗濯干し等)や本人の好みの作業を一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られたとき、家族の希望していることや本人が望まれていること等を尋ねている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同じ敷地内にあるケアハウスから友人が来られたり、以前住んでいた近所の方が来られた時、居室でゆっくり会話ができるようにしている。	外出のときには家族に頼み、実家に連れて行ったり法事やお墓参りして入居者の馴染みの関係維持を支援している。ケアハウスから移ってきた人も多く、交流を続け馴染みの関係を維持している。	家族を含めた外出支援ボランティアを開発して、十字園の敷地内だけでなく地域に出て社会参加出来る工夫を期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同志で仲良く会話をしている時は邪魔をしないように見守りをする。また好みの趣味活動と一緒にできるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に長期入院になったり、施設入所になっても必要に応じて家族の相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と会話している時、さりげなく生活のこだわり等の聞き取りをしている。困難な時はバックグラウンドを利用したり、家族の方から聞き取りをしている。	朝起きたらご主人の写真にお茶をお供えするなど長い間の習慣を大切に支援している。何回でも花の水を換えるなど本人の意向や趣味を把握するようにしている。	毎日のように畑に自由に出ている今までの入居者の経験・習慣を尊重しているが、安全上途中のU字溝の蓋を設置することを勧めます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の談話の中で利用者がしてきたことなど、気付いたことや面会時家族から聞いたことなど、情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人が好みの事や出来ることを把握し、自信の持てる生活ができるように働きかけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の会話の中で、利用者ができること、昔の仕事や果たしたいこと等を気付いたら書き留めている。家族とは面会時、相談したり希望を聞いたりして介護計画に反映するようにしている。	6ヶ月毎に担当者会議でモニタリングを行い、年1度のカンファレンスには家族も出席して意見を聞いている。「気づきノート」も参考にカンファレンスに参加出来ない人の意見も計画作成に反映出来るようにしている。	担当職員・家族・本人を含めたカンファレンスやモニタリングを精力的に行い、本人がより良く暮らすための課題に、さらに鋭意に取り組むことを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の気づきノートを作り、利用者本位のケアを考えて共有しながら実践できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	型にはまった介護ではなく、個々にあった支援ができるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の高齢化が進み、地域資源の活用は困難となっているが、生きがいのある生活ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の必要な方は、定期的に家族が病院に連れて行かれる。緊急時には、かかりつけ医に事業所が相談し指示を仰いでいる。	毎週提携の総合病院より定期的に往診があり、入居前からのかかりつけ医への受診は家族と話し合い継続し、いずれも診療情報を共有している。医療機関との信頼関係は深い。	現在の提携病院との信頼関係を維持し、以前からのかかりつけ医との関係も大切にする受診支援を続けてください。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内には看護職員がいないので、併設の特養の看護職員に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から利用者の健康状態の変化がある時は、相談し協力医との連携を深めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療的管理の必要な方は、十分な治療ができるよう協力医に相談しながら、できるだけ施設での生活を継続してもらえよう支援している。	重度化した場合は入院で対応し、終末期の看取りは現在はそのままで考えていない。	ホームが入居者の重度化や終末期を支えて行けるかを再度充分見極め、他の入居者への影響も踏まえてさらなる検討を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師がいないので、日頃の鍛錬が必要なのは周知しているが、十分に行えていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体の防災訓練を年2回実施している。地元の消防団の協力を得て参加してもらっている。ホーム内では毎月1回災害時の自主訓練を行っている。	防災管理規定を設け、防災教育・防災訓練を行っている。法人内に自衛消防組織を作り地元消防団の応援もある。スプリンクラーを今年度中に設置予定。	大規模災害を想定して食料・飲料水の備蓄を勧めます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入室時にはノックをして礼儀を守っている。また、尿失禁があっても、周囲にも配慮し本人も傷つかないように、さりげなく速やかに対処している。	入居者個々の個性を把握、トイレ誘導などに本人の尊厳に配慮している。個人のプライバシー確保のため居室に表札無し。法人事務所にシュレッダーを置き、個人情報を守っている。	個人情報対策委員会は設置・構成されているが、本年度も早めに開催し、尊厳重視とプライバシー保護について、専門的に検討されることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好みの洋服や趣味活動等、本人の希望を聞いて自己決定ができるよう工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの日課を決めずに、一人ひとりの意志を尊重して1日の流れにそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月2回の施設内での散髪日を利用してカットしてもらっている。希望者にはヘアカラーしてもらっている。季節に合った服が着られるように衣類の整理を一緒にする。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に料理を作っている。それぞれに得意な分野を受け持ち、楽しく作業できるように働きかけている。	食事の準備段階から一緒に楽しむ工夫有り。献立には入居者の好みを取り入れ野菜を切ったり、盛りつけや配膳を手伝い、食事中は天気や食材の楽しい会話をし、片付けも出来る人は一緒にしている。	食卓の高さを入居者に合わせ改善し、食器も陶器を使用し食卓をより楽しく、潤いのあるものにされることを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士がたてた献立にそって調理している。水分量が確保できるよう、動いた後にはお茶等を勧めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけして口腔ケアをしている。できない利用者のは職員が援助している。拒否されたときは少し時間をおいたり、違う職員が対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入所されてから排泄の失敗もなくなり、本人も大変喜ばれています。本人の希望で1名のみ紙パンツ使用者がいますが、ほとんどの失敗はありません。	外出前・食事前・入浴前、お茶の時さり気なくトイレ誘導し、自立排泄の向上を支援、職員は個々の排泄サインを受け止めタイミングを計りトイレ誘導しているので失敗は少ない。	入居者個々の排泄パターンをより具体的に把握して、さらに細かく排泄支援を徹底し、一歩でも自立でのトイレ排泄に近づくように支援することを期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックをし、夜間の排泄後、水分補給し便秘予防している。便秘の人は主治医にも、相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否があれば、時間をずらして再度声をかける。拒否の原因を考え、声のかけ方を変える。同じ職員が入浴の準備から終わりまで関わっている。	季節感を出すため「菖蒲湯」「柚子湯」「ヨモギ湯」をしたり、湯温にも配慮して楽しい入浴を支援。毎日入浴の人もあるが大体隔日。入浴しない人には無理強いしないで翌日に誘っている。	入浴を人間関係を繋ぐ大切な機会と捕らえ、共に楽しいホーム生活を享受出来るように願います。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、散歩や洗濯干し、調理等の家事全般を職員と一緒にいき、体を動かすように働きかけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に朝・昼・夕とケースに分別し、食事が終わり利用者が落ち着いた頃、手渡しして服用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの経験を生かし、食事作りや片付け・掃除・洗濯干しやたたみ等を役割として、「役に立っている」と思えるような働きかけをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の戸外への散歩は援助出来ている。自宅への帰省や墓参り等はご家族に協力してもらっている。	十字会の敷地内に散歩コースは事欠かないので、入居者は連れだって楽しそうに散歩している。月2回はおやつなどを近所のスーパー等に2.3人で買いに行く。	入所前によく行った場所についてアセスメントし把握しておき、故郷訪問や思い出の場所への外出について家族とよく相談し、協力支援関係構築を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで、返って不安になる方がおられるので、小銭程度しか所持してもらっていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をかける方はおられないが、家族から定期的にかけていただいている。また、手紙も自ら書く方はいないので、年1~2回葉書を出すよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を生けたり、利用者の作品等を飾り会話が自然に出来るようにしている。窓から見える景色は季節の変わりを感じる事ができる。	まちかど展覧会に出品した共同作品が季節に応じて飾り付けられ、入居者の人間関係に合わせて居場所の席替えもし、庭にも自由に出られる開放的な居心地の良い共有空間である。	当日はきちんと片付け過ぎて寂しい感じがし、長いすにはクッション・テーブルには生花など有れば、もっと潤いのある共有空間となると思います。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを楽しみたい人はテレビの近くでくつろいで見られるように椅子を準備している。同じ趣味を一緒にしたい人にはスペースを用意して利用者同志で楽しめるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に使い慣れた家具(たんす・椅子)や家族の写真を飾り、自分の部屋とわかるようにしている。	写真や位牌・使い慣れた筆筒や化粧箱が持ち込まれ、ケアハウスからの入居者は畳のベッドをそのまま使い、整理好きで調度が少ない人もあり、本人の趣向を取り入れ個性的な居室である。	入居者の状況や本人の思いや意向をアセスメントして、心から入居者が安心して気持ちよく過ごせる、個々の本人に相応しい、居室作りの支援をこれからも期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「洗面所」や「トイレ」等の場所はわかりやすく手作りの表示を掛けて、できるだけ一人で移動し我が家のように生活してもらっている。		